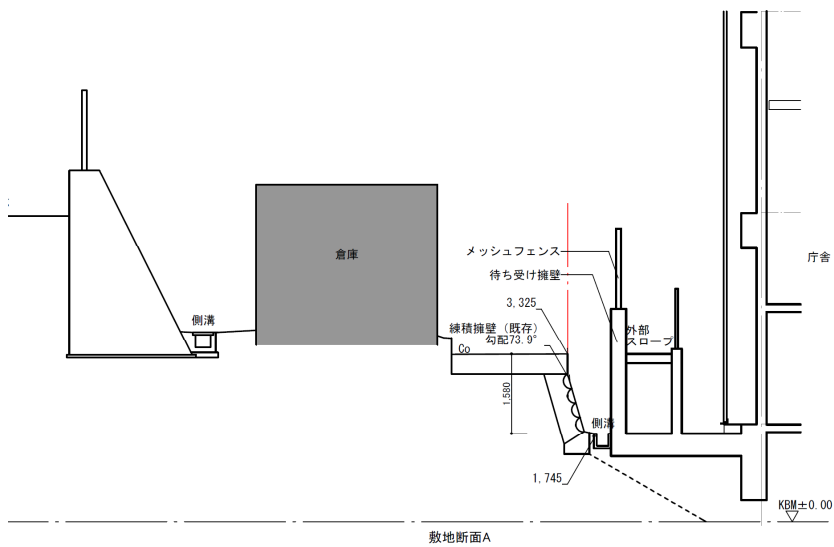
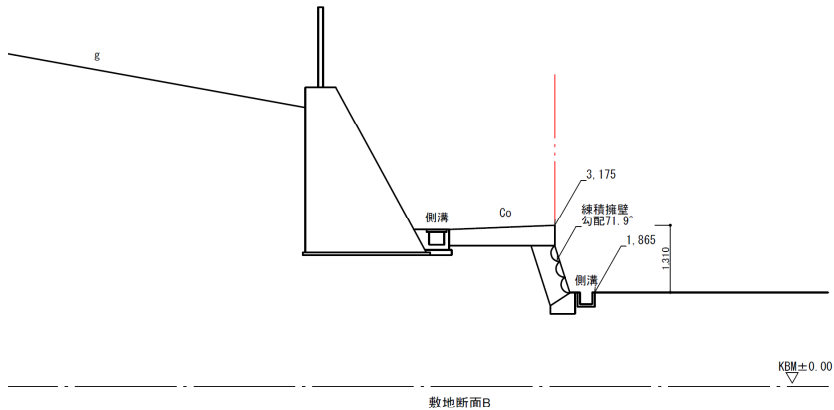


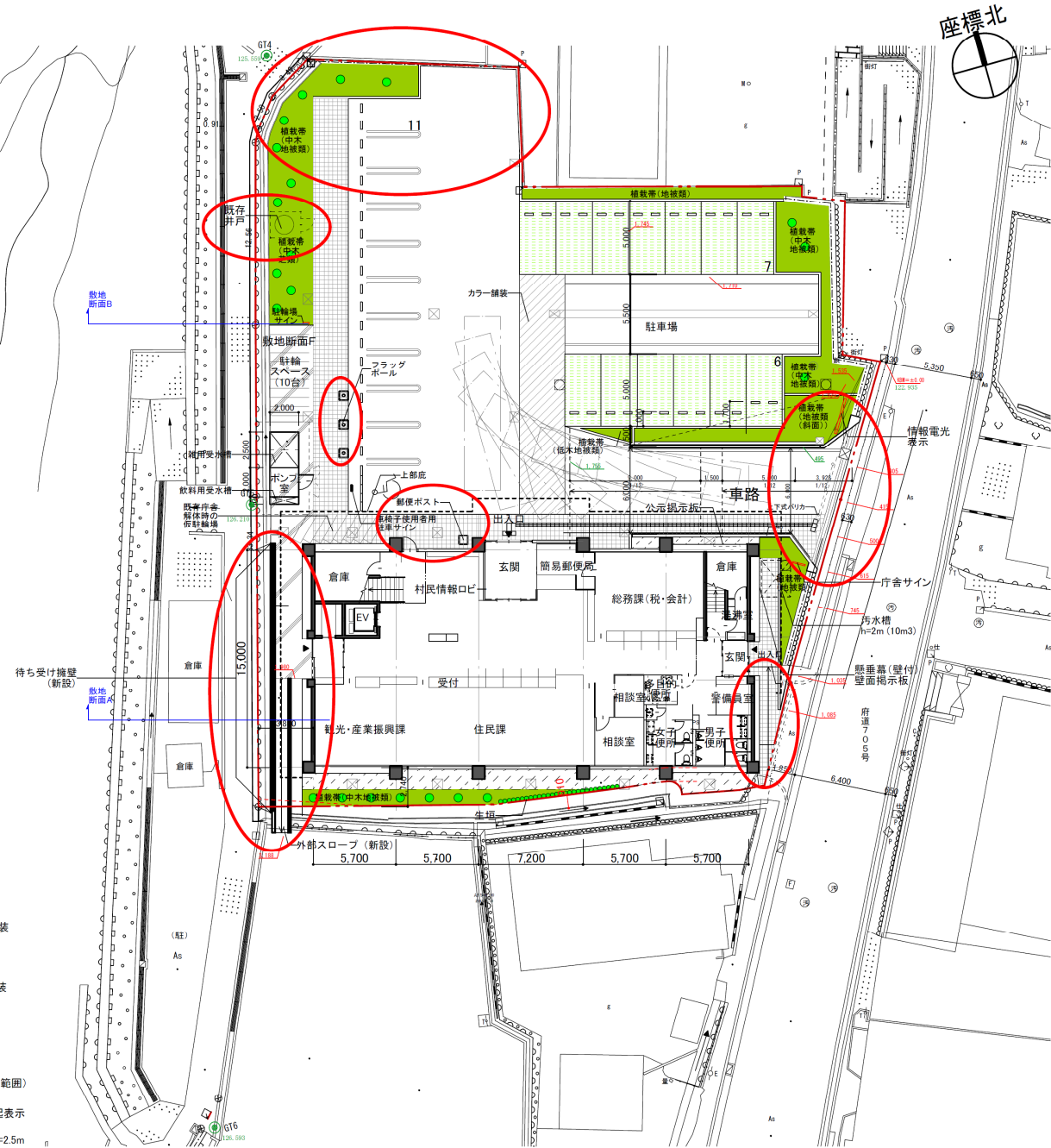
千早赤阪村新庁舎建設検討委員会

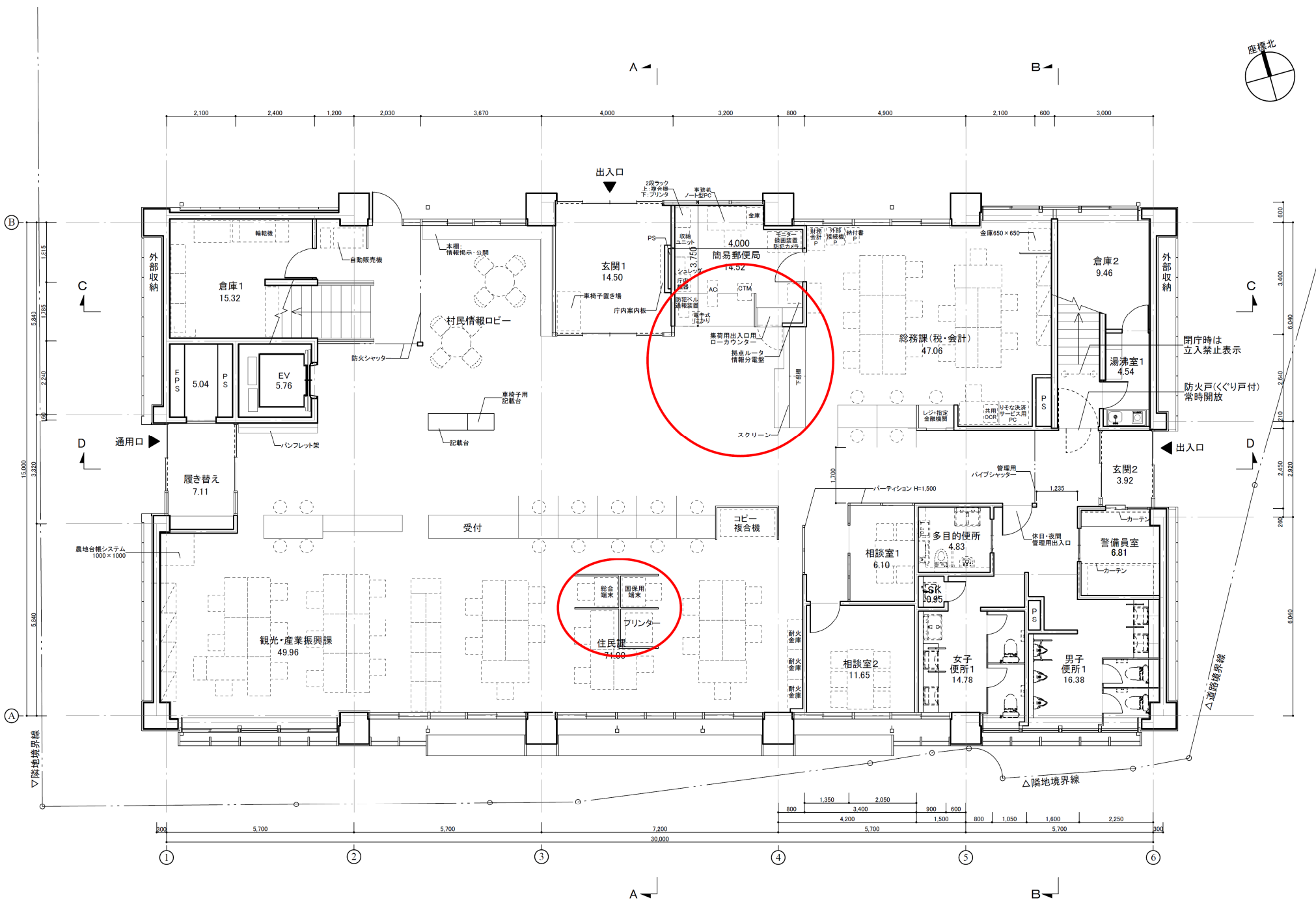
説明資料

令和元年6月5日



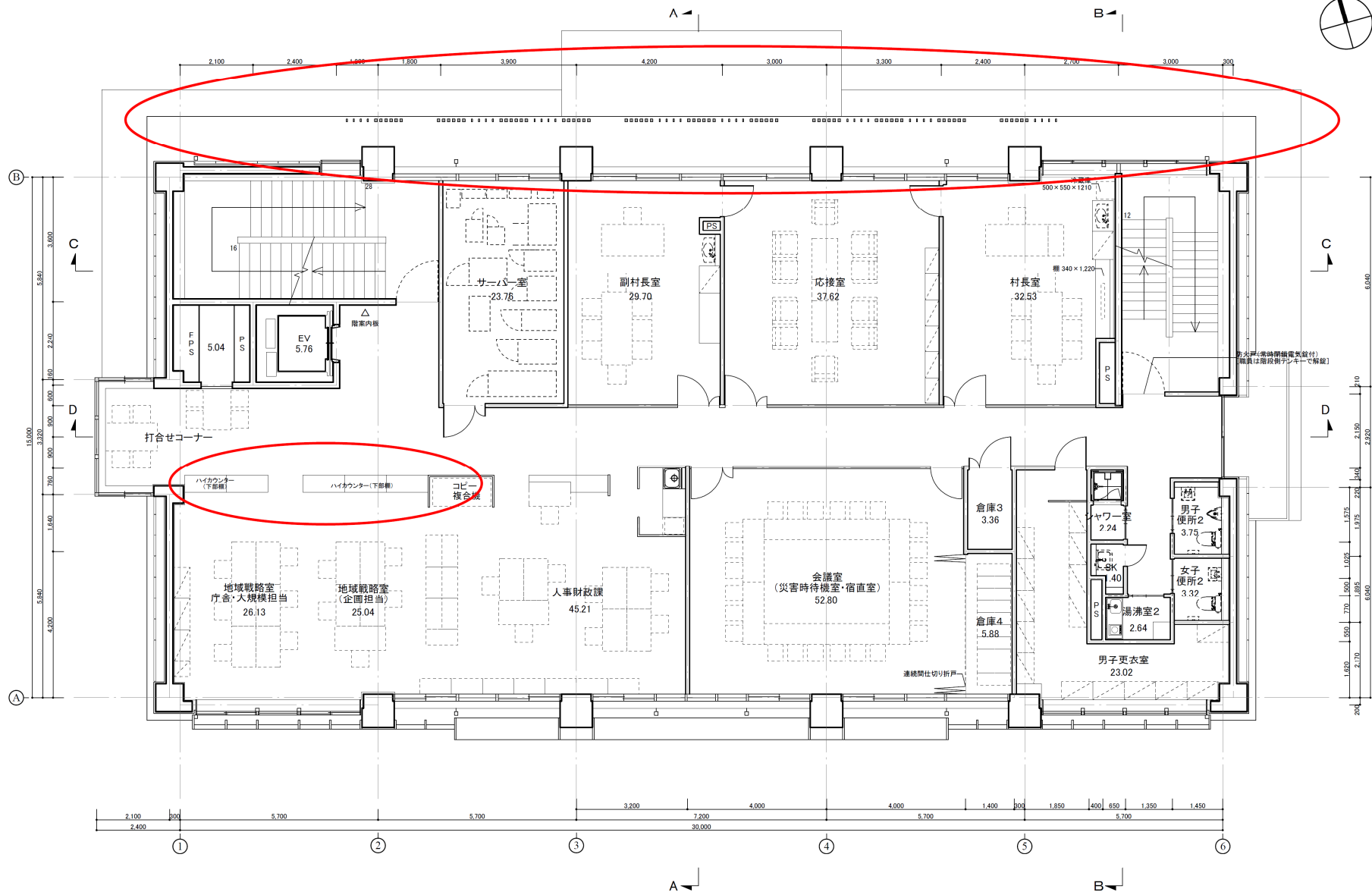
- 凡例
- アスファルト舗装
 - タイル舗装
 - コンクリート舗装
 - 砂利敷き
 - 砕石敷き
 - 植栽帯
 - 緑化ブロック (駐車スペース範囲)
 - 視覚障害者用 誘導・注意喚起表示
 - 樹木(中木) H=2.5m





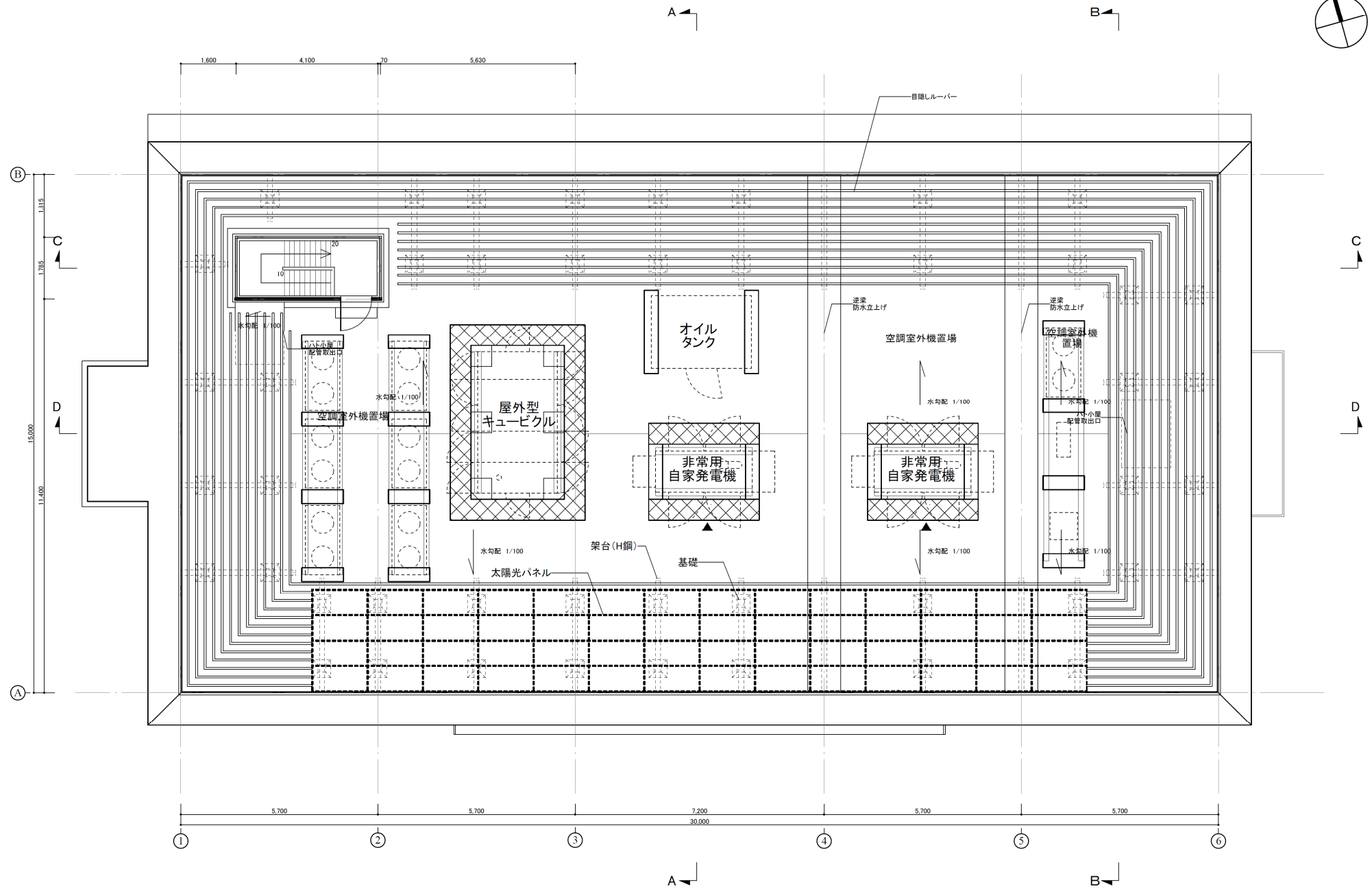
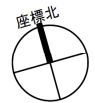
1階床面積：462.44㎡

1階平面図



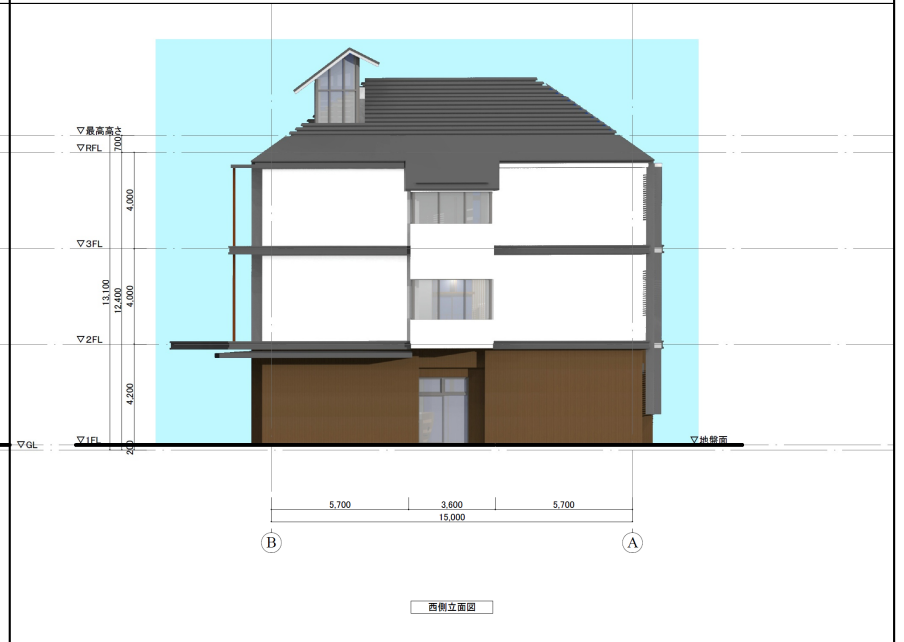
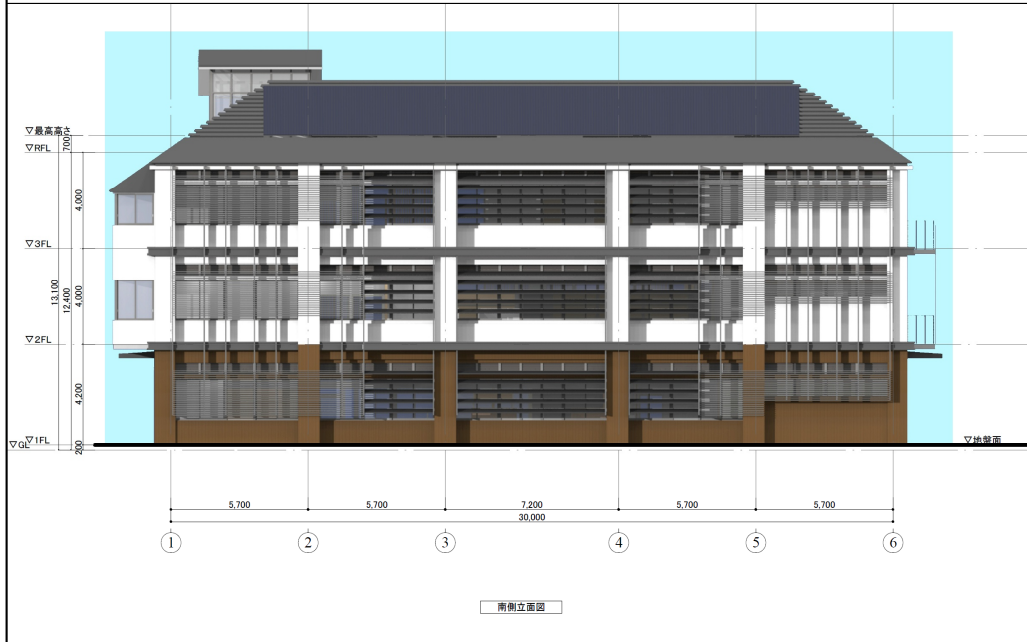
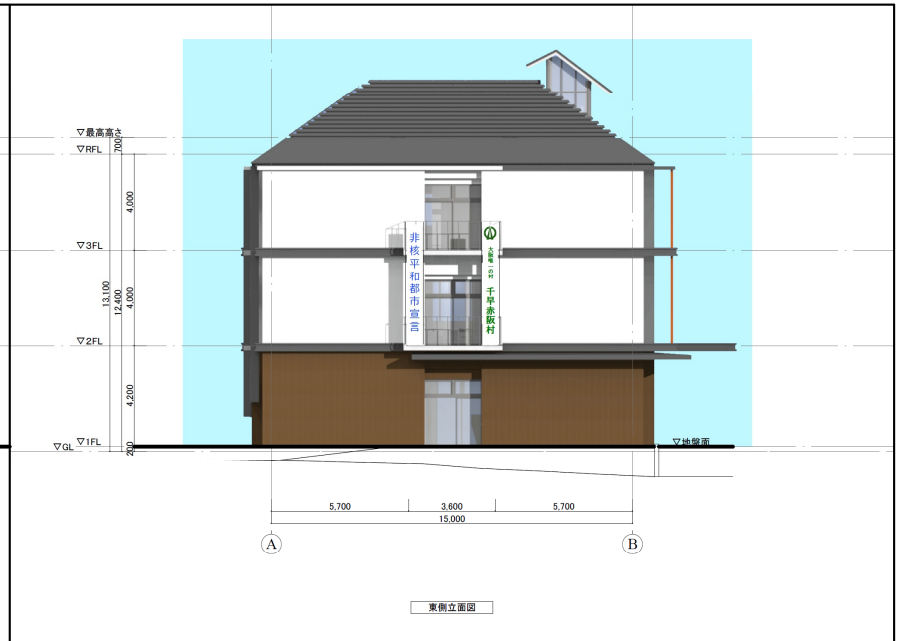
2階床面積: 469.66㎡

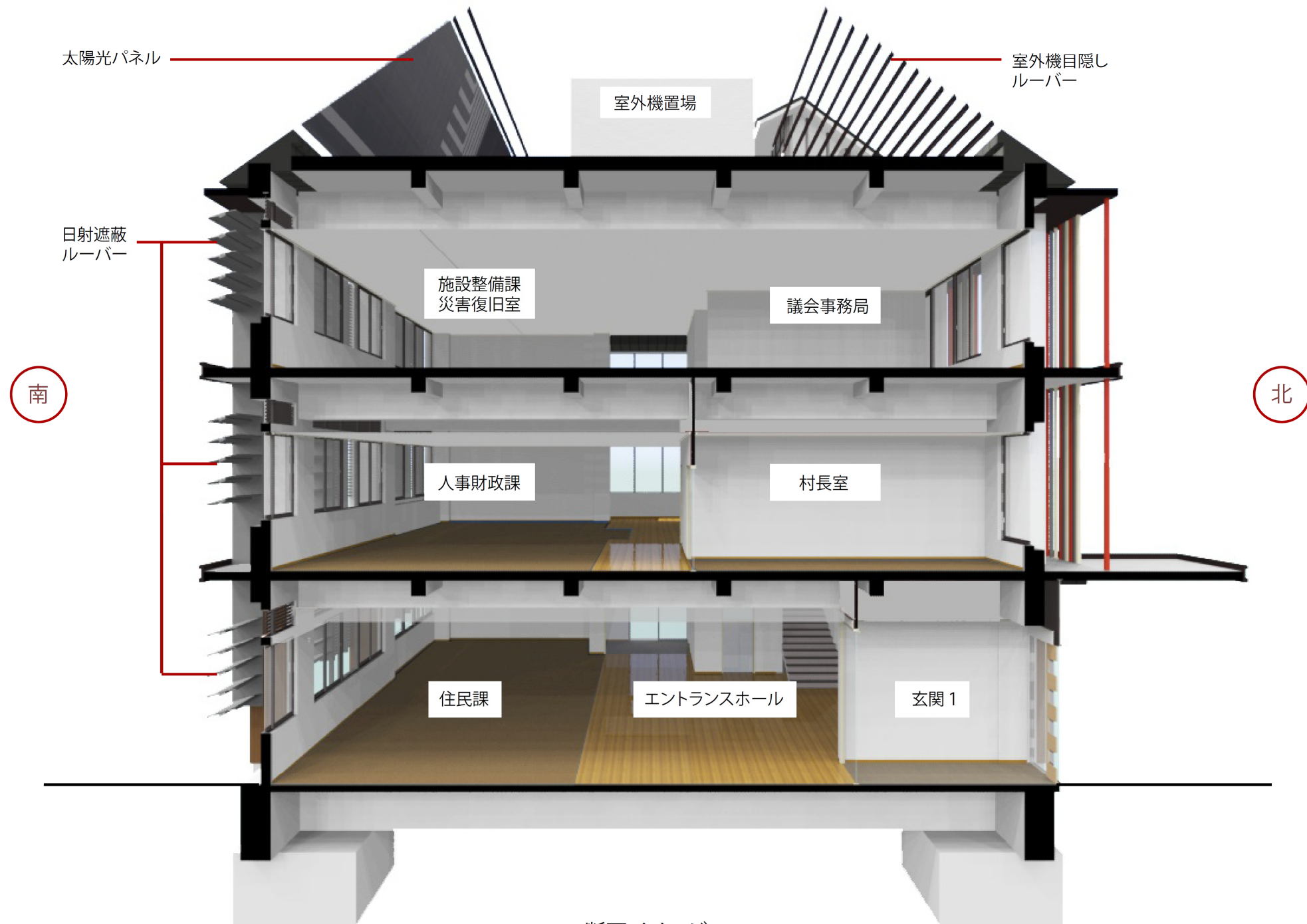
2階平面図



塔屋階床面積: 7.44㎡

塔屋階平面図





■千早赤阪村 民家写真例



周辺民家に多く見られる板張り、漆喰壁、霧よけ庇



■甲冑 千早赤阪村郷土資料館参考



色々糸威腹巻 (いろいろとおどしはらまき)
南北朝時代以降の甲冑の一形式

色々威とは複数の色を不規則に用いた威のこと。
3色以上の色系（紅、白、黒など）で綴りつく
られている。

緘（おどし）とは、日本の小札（こざね）式の甲冑の製造様式で、小札板を革や糸などの緒で上下に結び合わせる事。
緘に使う緒を緘毛（おどしげ、古くは「貫緒」と呼ぶ。小札を左右に結び合わせることは、横縫（よこぬい）や
下緘（したがるみ）、横綴（よことじ）、横搦（よこがらみ）などと呼ばれ、牛馬の革を用いる。
元来「緘」は「威」と書いた。「緒を通す」、すなわち「緒通す（おどおす）」の言葉に「威す」の字を当てたのである。
また平安時代以前は「貫（つら、ぬき）」「連」などとも記されていた。後に「威」に「糸」偏をつけた和製漢字である
「緘」も用いるようになった。



アプローチ 10



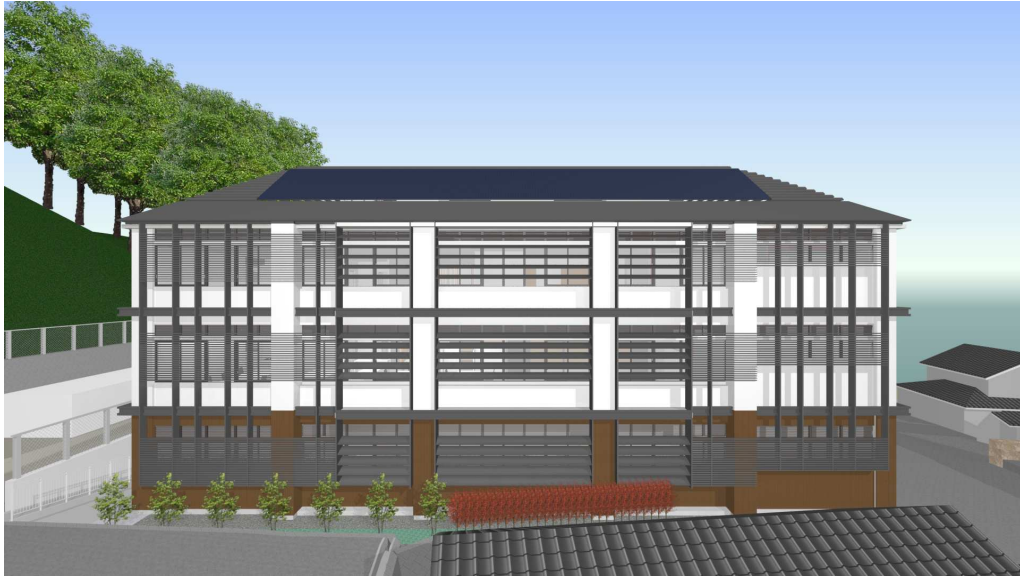
北東外観 11



北側外観 12



東側外観 13



南側外観 14



西側外観 15



北西外観 16



エントランスホール1 17



エントランスホール2 18



2階執務スペース 19